

事務事業 No./名称	■サービス部門 市民-15 □支援部門		観光振興事業				
主管課	観光課	関連課					
分野名	観光						
目標 (目標値)	観光振興に関する観光客及び市民の満足度を高める。平成22年度までに観光客80%、市民90%が目標数値。入込観光客数を現状値(17年の1840万人)以上とする。						
人口等のデータ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備考		
	人口	177,161人	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯			
	観光客数	19,486,481人	18,833,713人	19,344,470人			
運営資源状況	決算値(千円)	83,306	77,355	69,693			
	(国・県)	16,252	873				
	(負担金等)	3	6	9			
	(一般財源)	67,051	76,476	69,684			
	人員配置数	1.4人	1.4人	1.4人			
	人件費(千円)	13,505	13,672	13,617			
	協働のパートナー	観光協会 商工会議所	観光協会 商工会議所	観光協会 商工会議所ほか			
事務事業運営経費	総事業費(千円)	96,811	91,027	83,310			
	市民1人当りの経費(円)	546	515	472			
	対象者1人当りの経費(円)	5.0	4.8	4.3			
	ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名	横浜	藤沢	箱根	京都	鎌倉
	観光客数	41,965,403	15,015,869	20,036,000	集計中	19,486,481	
	宿泊数	4,820,450	392,431	464,605		343,762	
	宿泊率	11%	3%	23%		2%	
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
HP1日当たりのアクセス数	◎	目標値	1,000	1000	1000	1000	1,000
		実績値	3844	3888			

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。
小事業名	H22決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性 A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止
観光振興支援事業	34,247千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ ■A □B □C □D □E	
	事業の概要	鎌倉観光三大行事や俳句&ハイク、鎌倉ビーチフェスタなどに負担金、補助金を交付し、様々な鎌倉観光の魅力を伝えた。着地型観光商品開発に向けての調査を行った。		
広報宣伝事業	2,636千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ ■A □B □C □D □E	
	事業の概要	四季のみどころや観光マップなどのパンフレット類やホームページの充実を図り、観光客への適切な情報提供に努めた。		
観光協会支援事業	36,484千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ ■A □B □C □D □E	
	事業の概要	観光協会の運営に対する支援を行い、鎌倉観光の充実に努めた。		
観光案内所運営事業	9,939千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ ■A □B □C □D □E	
	事業の概要	JR鎌倉駅東口駅前の観光案内所の運営を委託し、観光客に適切な情報を提供した。		
		①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ □A □B □C □D □E	
	事業の概要			
		①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ □A □B □C □D □E	
	事業の概要			

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)				
H22年度の課題	広報媒体に広告を掲載し、いかに財源の確保に結びつけるかが課題。鎌倉ビーチフェスタや俳句&ハイク事業に対し補助金を交付しているが、より効果的で効果の高い事業への見直しを求められている。また、着地型観光商品開発については商品開発に結び付く調査を行う必要がある。			
課題解決のための取組	ホームページやパンフレットで、広告を掲載する準備を進めた。鎌倉ビーチ俳句&ハイク事業に対し補助金を交付しているが、より効果的で効果の高い事業への見直しを求められている。着地型観光商品開発のための調査を行った。			
未解決の課題	広告主の効果的な募集方法を検討しなければならない。効果的なイベント開催について関係団体と調整する必要がある。			
今後の方針	財源確保のため広告を募集するために今後さらにアクセス数をふやしていく。イベントについては関係機関と協議し効果的な運営方法を検討していく。着地型観光商品開発については調査結果を基に商品化に結び付けていく。			
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	⇒	A	※ □事業完了 課長名 観光課長 服部 計利

個別事業の概要

(単位:千円)

小事業名	ザイムスコード	個別事業名	22年度予算	22年度決算値	個別事業の評価結果	
観光振興支援事業	主な個別事業	・観光資源ネットワーク構築及び着地型観光商品開発等にかかる支援業務委託料	21,249	16,253	■適切	□見直し余地あり
		・鎌倉ビーチフェスタ事業負担金	1,100	1,100	■適切	□見直し余地あり
		・鎌倉花火大会実行委員会負担金	5,004	5,004	■適切	□見直し余地あり
		・主要観光行事安全対策負担金	5,000	5,000	■適切	□見直し余地あり
		・鎌倉まつり・薪能等補助金	6,290	6,290	■適切	□見直し余地あり
広報宣伝事業	主な個別事業	・四季のみどころ印刷製本費	1,240	1,184	■適切	□見直し余地あり
観光協会支援事業	主な個別事業	・鎌倉市観光協会運営費補助金	36,607	36,484	■適切	□見直し余地あり
観光案内所運営事業	主な個別事業	・観光案内所業務委託料	9,770	9,754	■適切	□見直し余地あり
主な個別事業	主な個別事業				□適切	□見直し余地あり
主な個別事業	主な個別事業				□適切	□見直し余地あり